

新連載

目録所長のあさひかわ楽

①

皆さん、こんにちは。これから暫く、月一回のペースでこのコラムを連載することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。仕事柄、金融や経済の話も出てくるかと思いますが、出来るだけ肩肘張らずに読んでいただけるようなテーマを取り上げ、エッセイ風に語ってみたいと思います。

存知権沢諭吉先生の郷里です。母は旧姓を竹内と言いますが、そのルーツは福岡だそうです。という訳で、私の中には九州の血が流れています。が、私は地縁、血縁が全くないこの北海道旭川に来て、とても快適に過ごして

オープンな心

が協力してつくりあげた街です。母は旧姓を竹内と言いますが、そのルーツは福岡だそうです。という訳で、私の中には九州の血が流れています。が、私は地縁、血縁が全くないこの北海道旭川に来て、とても快適に過ごして

新連載「目録所長のあさひかわ楽」スタート

日本銀行旭川事務所長 尾家啓之さんのエッセイを今号からスタートします。毎月第一週の掲載です。米国の留学・勤務の経験もある尾家所長が、我がまちをどのように語るのが、お楽しみに。

16面

このように多様な背景をもった人や文化が混ざり合う社会の強みとは、元来、過去のしがらみや、固定観念にとらわれない「自由な発想」そして強靱でしなやかな社会基盤ではないかと思えます。オープンな心を

持ち合わせるこの地域が、外部からの刺激をうまく取り込みながら、よりよい方向に変わり続けていくことを願ってやみません。

（日本銀行旭川事務所長 ※毎月第一週に掲載します）



尾家啓之（おいえひろゆき）さん 一九五八年（昭和三十三年）東京都生まれ。七四〇七五年（同四十九、五十一年）に米国ユタ州へA.P.S.奨学金高校留学。早大政経学部政治科を卒業し、八二年（同五十六年）日本銀行に入行。米国ワシントンでの勤務や、梅本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。

日銀旭川事務所の役割

皆さんは日本銀行が旭川に事務所を構えて六十年以上経っていることを存知でしょうか。厳密には終戦一年後の一九四六年(昭和二十一年)八月一日に開設してありますので六十三年近くになります。銀行とはいえ、一般のお客様から預金を預かったり、貸出をするところではありません。

したがって、馴染みが薄いかも知れません。それでは、それはと長く当地と共にある日銀事務所

の役割とは何なのでしょう。第一にあげられるのは日銀券すなわちお札の田漕な流通です。旭川事務所では道北地域(上川、宗谷、網走支庁管内)を所管にして

おられますので、この地域において、皆さんが安心してお金を使うことができるように努めています。具体的には、密貯券制度という仕組みの下、北洋銀行旭川中央支店さんの協力を得て、地元金融機関との間で現金の受け渡しを日々行っています。こうして日銀から出て行ったお札は金融機関を通じて皆様の手元に

わたり、役割を終えたお札はまた日銀に戻ってきます。安心してお金を使えるというには、偽造券や変造券が出回らないことばかり、通貨の価値が安定していることも含まれています。

このほか、地域の金融や経済に関する調査や、こうした調査を踏まえた情報発信も大事な役割です。地元の情報も本部に伝達するべく、本部の情報を地元で還元することも重要な任務と思っております。最近で

は、日銀の広報(コミュニケーション)のみならず広く金融知識の普及や金融教育に関する情報発信にも力を入れています。この四月には日銀旭川事務所のホームページを全面的にリニューアルしました。いろいろな情報が詰まっていますので、是非、アクセスしてみてください。(http://www.3.boj.or.jp/asahikawa/)

日本銀行旭川事務所長 ※毎月第二週に掲載します

目銀所長のあさひかわ楽



筆者が抱えているのは1億円の模擬バック。約10kgの重さがある。日銀旭川事務所

厚紙で包まれたお札の重さ(1kg) 一九五八年(昭和三十三年)東京生まれ。七四、七五年(同四十九、五十一年)に米國ユタ州へAFS奨学金で留学。早大政経学部政治学科を卒業し、八一年(同五十二年)日本銀行に入行。米國ワシントンでの勤務や、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画などを経て、〇七年(平成十九年)から旭川事務所長。趣味は音楽鑑賞、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。